

業務委託契約書（案）

発注者 雄勝地域振興局長 小原 友明 と 受注者 ○○○○ とは、自家用電気工作物保安管理業務について、次のとおり委託契約を締結する。

（委託業務）

第1条 発注者は、電気事業法第42条第1項に定められた事業用電気工作物の維持義務に基づき、次に掲げる事業用電気工作物の工事、維持及び運用に関する保安を確保するため、第5条に定める業務を受注者に委託し、受注者は受注者の保安業務受託規程に基づき、これを誠実に実施する。

- | | |
|---------|-----------------------------------|
| (1)業務場所 | 湯沢市千石町 千石大橋 消融雪施設 |
| (2)需要設備 | 千石大橋1号（跨線橋融雪東側） 容量300kVA 電圧6,600V |
| | 千石大橋2号（跨線橋融雪西側） 容量200kVA 電圧6,600V |

（委託期間）

第2条 委託期間は、令和8年4月1日から令和9年3月31日までとする。

（委託料）

第3条 委託料は、¥ ○○○○ －
（うち消費税額及び地方消費税額 ¥ ○○○ －）とする。

（契約保証金）

第4条 契約保証金は、¥ ○○○○ －（※納付の場合）
秋田県財務規則第178条第 号の規定により免除（※免除の場合）

（特別契約事項）

第5条 この契約は地方自治法（昭和22年法律第67号）第234条の3及び長期継続契約を締結することができる契約を定める条例（平成18年秋田県条例第9号）に基づく長期継続契約であるため、本契約を締結した日の属する年度の翌年度の歳入歳出予算において、この契約に係る金額について減額又は削除があった場合には、発注者はこの契約を変更又は解除することができる。この場合において、受注者は、解除により生じた損害の賠償を請求することができない。

（委託業務の内容等）

第6条 受注者は、発注者の保安規程及び発注者が必要に応じて指示する事項を遵守のうえ、次に掲げる委託業務を処理するものとする。

- (1) 保安規程に定める当該電気工作物の定期的な巡視、点検及び測定・試験は次のとおり行うものとし、経済産業省令で定める技術基準に適合しない場合又は適合しないおそれがある場合は、とるべき措置について発注者に必要な指示又は助言を行うこと。

① 定期点検（月次点検及び年次点検）

月次点検（通常月）（1 1月～3月の5か月） 月1回

月次点検（休止月）（4月～10月の7か月） 随時（日常巡視）

年次点検 年1回

② 臨時点検 必要の都度

(2) 当該電気工作物の事故その他電気工作物に異常が発生し又は発生するおそれがある連絡を発注者から受けた場合において、受注者は現状を確認し、送電停止等必要な応急措置を発注者に指示するとともに、事故原因の究明に協力し、再発させないためのとるべき措置を指示又は助言し、必要に応じ臨時点検を行い、電気事業法第106条の規定に基づく電気関係報告規則に定める電気事故報告書の作成及び手続きの指示を行うこと。

(3) 電気事業法第107条第3項に規定する立入検査の立会いを行うこと。

2 受注者は、発注者に対して前項の業務の状況を書面をもって報告するものとする。

（業務着手届等）

第7条 受注者は、業務の実施に先立って業務着手届及び業務計画書を発注者に提出するものとする。

（保安業務担当者）

第8条 受注者は、保安管理業務に従事する資格を有する者から保安業務担当者を指名し、その氏名及び生年月日並びに主任技術者免状の種類を発注者に通知するものとする。また、保安業務担当者を変更したときも同様とする。

（連絡責任者）

第9条 発注者は、電気工作物の工事、維持及び運用に関する保安のため必要な事項を受注者に連絡する連絡責任者を定め、その氏名等を受注者に通知するものとする。また、連絡責任者を変更したときも同様とする。

（秘密の保持）

第10条 受注者は、この委託業務の履行に関して知り得た秘密を他に漏らしてはならない。

（調査等）

第11条 発注者は、受注者の委託業務の処理状況について、随時に、調査し、若しくは必要な報告を求め、又は委託業務の処理に関して受注者に必要な指示を与えることができるものとする。

（再委託の禁止）

第12条 受注者は、この契約について委託業務の全部又は一部を第三者に委託してはならない。ただし、書面により発注者の承認を得たときはこの限りでない。

(検査)

- 第 13 条 受注者は、毎月の業務が終了した都度、当月に実施した委託業務の報告書を発注者に提出するものとする。ただし、休止月における報告は異常があったときのみで足りるものとする
- 2 発注者は、前項の報告書を受領したときは、その日から 10 日以内に検査を行わなければならない。
- 3 受注者は、委託期間が満了したときは、遅滞なく、業務完了届を発注者に提出するものとする。

(委託料の支払い)

- 第 14 条 受注者は、前条の検査に合格したときは、委託料の支払いを請求することができるものとする。

履行内容・履行期限	報告期限	支払金額
月次点検（休止月） 4月1日～10月31日 7ヶ月間	点検実施月の翌月5日まで ただし、異常がない場合は報告不要とする	¥ 〇〇〇〇 - (うち消費税及び地方消費税額 ¥ 〇〇〇 -)
月次点検（通常月） 11月1日～翌年3月31日 5ヶ月間	点検実施月の翌月5日まで (3月実施分については3月31日まで)	¥ 〇〇〇〇 - (うち消費税及び地方消費税額 ¥ 〇〇〇 -)

- 2 発注者は、前項の規定による請求があったときは、請求を受けた日から 30 日以内に委託料を支払わなければならない。

(履行遅滞の場合における損害金等)

- 第 15 条 発注者は、受注者の責めに帰すべき事由により履行期間内に業務を完了することができない場合においては、損害金の支払いを受注者に請求することができる。
- 2 受注者は、発注者の責めに帰すべき事由により、第 13 条第 2 項の規定による委託料の支払いが遅れた場合においては、未受領金額につき、遅延日数に応じ、年 2.5 パーセントの割合で計算した額の遅延利息の支払いを発注者に請求することができる。

(発注者の解除権)

- 第 16 条 発注者は、受注者が次の各号のいずれかに該当するときは、この契約を解除することができるものとする。
- (1) その責めに帰すべき事由により、委託期間内に業務が完了しないと明らかに認められるとき。
- (2) 保安業務担当者を配置しなかったとき。
- (3) 前 2 号に掲げる場合のほか、この契約に違反し、その違反によりこの契約の目的を達成することができないと認められるとき。

- (4) 役員等（受注者が個人である場合にはその者を、受注者が法人である場合にはその役員又はその支店等の契約を締結する事務所の代表者をいう。以下この項においては同じ。）が、暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号。以下「暴力団対策法」という。）第2条第6号に規定する暴力団員（以下この項において「暴力団員」という。）であると認められるとき。
 - (5) 暴力団（暴力団対策法第2条第2号に規定する暴力団をいう。以下この項において同じ。）又は暴力団員が、受注者の経営に実質的に関与していると認められるとき。
 - (6) 役員等が自己、自社若しくは第三者の不正の利益を図る目的又は第三者に損害を加える目的をもって、暴力団又は暴力団員を利用するなどしたと認められるとき。
 - (7) 役員等が、暴力団又は暴力団員に対して資金等を供給し、又は便宜を供与するなど直接的あるいは積極的に暴力団の維持、運営に協力し、若しくは関与していると認められるとき。
 - (8) 役員等が、暴力団又は暴力団員と社会的に非難されるべき関係を有していると認められるとき。
 - (9) 再委託契約その他の契約にあたり、その相手方が同項前号までのいずれかに該当することを知りながら、当該者と契約を締結したと認められるとき。
 - (10) 同項前号までのいずれかに該当する者を再委託契約その他の契約の相手方としていた場合（第9号に該当する場合を除く。）に、発注者が受注者に対して当該契約の解除を求め、受注者がこれに従わなかったとき。
- 2 発注者は、受注者が第16条の規定によらないで契約の解除を申し出たときは、この契約を解除することができるものとする。
 - 3 受注者は、第1項又は前項の規定によりこの契約が解除されたときは、委託料の10分の1を違約金として発注者の指定する期限までに支払わなければならない。この場合において受注者が契約保証金を納付しているときは、発注者はその契約保証金を違約金に充当できるものとする。
 - 4 受注者は、第1項の規定によりこの契約が解除されたときは、発注者にその損失の補償を請求することができない。

（受注者の解除権）

第17条 受注者は、次の各号のいずれかに該当するときは、この契約を解除することができるものとする。

- (1) 委託業務の内容を変更したため、委託料が3分の1以下に減少したとき。
- (2) 委託業務の中止期間が委託期間の2分の1を超えたとき。
- (3) 発注者がこの契約に違反し、その違反により委託業務を完了することが不可能になったとき。

（契約の費用）

第18条 この契約の締結に要する費用は、受注者の負担とする。

（信義則）

第19条 発注者及び受注者は、信義に従い誠実にこの契約を履行しなければならない。

(疑義等の決定)

第 20 条 この契約に定めのない事項及びこの契約に関し疑義が生じたときは、発注者と受注者が協議して定めるものとする。

この契約の締結を証するため、本書 2 通を作成し、両者記名押印のうえ、各自その 1 通を保有するものとする。

令和 年 月 日

発注者 湯沢市千石町二丁目 1 番 10 号
秋田県雄勝地域振興局長 小原 友明

受注者 ○○○○○○
○○○○
○○○○